



「播州鉄道と加古川」

加古川の玄関口 JR 加古川駅が現在のよ
うな高架駅となったのは、平成 15 年(2003)
3 月 1 日のことです。旧駅舎は明治 43 年
(1910) 西成線の桜宮駅として建てられた
ものを大正 8 年(1919)に移築されたもの
です。陸上交通の要である鉄道は、明治時
代に各地に敷設されていきます。



加古川に最初に設立された鉄道会社は、
播州鉄道株式会社で、明治 44 年(1911)5 月 18
日加古川公会堂において創立総会を開催します。軌間 3 フィート 6 インチ
(1067mm) の単線で、蒸気鉄道が当時の加古川の風景に登場します。翌年 3
月 1 日から各区间で工事が着手されます。4 月 1 日から加古川—国包間 8 km
開業、8 月 10 日から国包—西脇間 25.3km 開業、12 月 1 日から高砂口—加古
川間 4.5km が開業します。

大正時代に入って、播州株式会社の営業状態悪化のため、大正 13 年
(1923)12 月 27 日播丹鉄道が事業を継承し、野村—谷川間 17.2km が開業しま
す。

昭和時代に入って、昭和 18 年(1943)播丹鉄道は、姫路—舞鶴(軍事基地
的存在)を結ぶ重要路線として、買収・国有化されます。昭和 48 年(1973)
10 月 1 日から加古川線の貨物列車が廃止となり、加古川線の S L は姿を消し
ます。時代の変化を感じる瞬間です。加古川線は昭和 62(1987)4 月 1 日、
JR 西日本に経営が引き継がれます。

平成時代に入って、加古川線の電化営業が平成 16 年 12 月 19 日に開始さ
れます。

鉄道の変遷をみていくだけでも、この 100 年間で目まぐるしく変化してい
ったことがみてとれます。加古川北高校は、本年 40 周年を迎えます。不易
流行ということばがありますが、良いところは守り、時代の変化に対応でき
るところは対応していきますので、地域の学校として見守っていただきたい
と思います。